



認定こども園どんぐり

ヨーロッパで始まった「森のようちえん」を理想形として、木育・食育・自然教育をコンセプトに次世代を担う子どもたちを育てています。



問合せ先 <https://kodomo-donguri.com/>
TEL.0138-64-4150



元々は建設会社の資材置き場でしたが、公園として使えるように整備をしてどんぐりで活用しています。元々あった木をうまく残して楽しんでいます。

森のようちえん

七飯町の自然豊かな環境の中で小さな子どもたちが思い切り体を使って遊べることを目指しています。毎年少しずつやれることから始めて、ひとつひとつの行事に木育を取り入れたり、木育の仲間からいろんな木育活動の知恵を借りながら、やれることをひとつずつ、継続できることを日々園作りに活かしています。

木育活動の紹介

年中さんはマイ著作り、年長さんは卒園式の花を飾る花器作りを行っています。あとは木育マスターさんの力を借りながら行う木の椅子作りですね。材料は地元の道南スギで、ある程度組み立てやすいキットにしています。できるだけ子どもたちだけで作る、もし作れない子がいたら子どもたち同士で助けあって、なるべく大人が手を貸さずに自分たちだけでできるようにしています。親御さんがいらした時は親子だけでコミュ

ニケーションをとってもらう形にして、僕らはほとんど口を出さないで見守るようにしています。自分で作ることでモノを大切にすることを育てたいと考えています。森町の木材工場見学に伺って、木はどこから来てあぁなってこうなって椅子になるんだってところまで、トータルでつながるようなことも理解してもらるようにしています。



毎年畑開きには、親御さんも交えて雑草取りや石拾いをしてから、みんなで耕してそこにトマトなどいろいろなものを植えます。自分たちが世話をしたものを収穫して食べることによって、例えばピーマンが苦手だった子どもでも、自分たちで作ったものは美味しいということがわかり、食べられるようになる子どももいます。そこは食育なんですよけど、木育であれば、自分で一生懸命作った木の椅子や箸を大事にするとか、箸は1年経ってもお母さんと一緒に油塗って「まだ使ってるよ」って言ってくれたりして、ひとつひとつ自分たちで作ってそれを大切にするという貴重な経験が、身になってきているのかなって思います。



森のようちえんとしての個性

教育・保育要領に基づいた指導計画もちろん保育に組み込んでいますが、なるべく週の半分以上は多少の雨でもカッパを着て外に出かけています。小さいうちから太陽、風、雨、自然の緑や海の匂いとか炭の匂いとかを五感で感じてもらいたいと思うからです。外に行くと「ねえねえ虫がいた」と言ってきたり、先生の方から教えるのではなく、その場その場で子どもたちが自分で考えて遊べる力が身についてきていると思います。子どもたちひとりひとりの遊ぶ力など自分が身につけたものを自由に伸ばしていつか何かの発見につながればいいのかなと思ってがんばっていきたくて思っています。



うちの園は元々、木育マスターさんが夫婦で「どんぐり」という託児所をやっていて、僕は建設業の方でサポートする立場でした。こういうものを作れないかとか、こういうことができないかという相談を受け、陰ながらお手伝いしていました。数年前から園の方に

しっかり携わるようになったことで自分自身も木育マスターの資格を取らせていただきました。資格を取ったことによって、マスター仲間の手伝いに行ったり来たりするうちに、自分の引き出しが増え、園の活動にも役立っています。



認定こども園どんぐり
理事長
秋田 雅樹さん